

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)介護老人保健施設 厚木	階数	地上3F
建設地	神奈川県厚木市上依知字上谷戸418-1他	構造	S造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	130 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年1月 予定	評価の実施日	2021年3月24日
敷地面積	3,153 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社内田豊建築事務所
建築面積	1,385 m <sup>2</sup>	確認日	2021年3月24日
延床面積	3,643 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社内田豊建築事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.8** ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub> 排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.8

**LR のスコア = 3.0**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.9

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 事業化を可能とするため、基本的な性能はしっかりと押さえつつ、できうる限り安価に建物が完成するように、無駄な装飾や意匠は排除して計画している。		<b>その他</b> 近隣住民との連携を重視し、要望などは可能な限り実現するようにした。
<b>Q1 室内環境</b> 施設内の快適性を確保するために、温熱環境(外皮断熱性能)として、空調や給湯設備に関しても、大規模設備によらない、ダウンサイジング設備で効率の良い運用が可能な計画としている。	<b>Q2 サービス性能</b> 施設の運営効率向上のため、各室の広さやレイアウト、動線計画に配慮している。また、災害時の拠点活動に資するべく、耐震性能の向上や設備の機能強化に配慮している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 駐車スペースの確保のため敷地利用のバランスに配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> 建物の断熱を調整し、コストパフォーマンスに優れた計画としている。空調や給湯設備に関しても、大規模設備によらない、ダウンサイジング設備で効率の良い運用が可能な計画としている。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 省資源への配慮として、水資源(節水型衛生設備)、建材再利用性(乾式工法による解体時の資材分別容易性)、汚染物質回避(ノンフロン断熱材)に配慮している。	<b>LR3 敷地外環境</b> 中央管理方式によらず個別空調方式の採用によって室毎のきめ細かい空調管理を可能にすることにより、エネルギー使用を効率化し、敷地外への環境負荷の低減を図っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される